

教育研究所だより



No.248 令和8年9月29日 【発行者】守山市教育研究所 所長 田中 滋規
守山市勝部三丁目9番1号(守山市生涯学習・教育研究センター 愛称:エルセンター 3・4階)
TEL:077-583-4217 FAX:077-583-4237
E-mail:kyoikukenkyl@city.moriyama.lg.jp
HP:http://www.city.moriyama.lg.jp/kyoikukenkyl_index.html

令和8年度 教育研究発表大会・教職員全体研修会

守山市教育研究発表大会・教職員全体研修会を8月24日(月)に開催しました。今年度も、教育研究発表大会と教職員全体研修会を合同としました。2学期を目前に控えた慌ただしい時期の開催でしたが、ご参加いただき、ありがとうございました。

大会の前半では、辻本長一教育長の挨拶に続いて、全国学力・学習状況調査の考察についての報告、当研究所研究員による調査研究の報告を行いました。後半の教育講演会では、関西外国語大学外国語学部教授 新井 肇 様にご講演いただきました。



【全国学力・学習状況調査の考察】

学校教育課の神馬指導主事より、今年度の結果を報告し、授業改善のポイントを以下の通り提言されました。

1. 子ども主体の学びとなる授業づくりに取り組む

- ①単元構想を子どもと共有する ②個別最適な学びの視点を取り入れる
- ③ふりかえりの質の向上 ④学びを深めるための ICT の効果的な活用

2. 授業や学級会の話し合い活動で、「深い学び」と「学習集団づくり」を支える

すべての教育活動において、教員が一人ひとりの子どもの学びを丁寧に見取り、その子に応じた支援を届けることが大切です。特に、学習につまずきや困り感のある子どもたちには、どこでつまずいているのかを見取り、具体的な手立てや学び方を工夫していくことが求められます。先生方の日々の「見取り」と「支援」の積み重ねが、子ども一人ひとりの「自分で学ぶ力」を育てます。各校で協議し、具体的な取組をお願いいたします。

【調査研究発表1】

守山南中学校教諭(令和6・7年度教育研究所研究員)の木村 有貴 より、研究テーマ「新たな不登校を生まない学校における視点を考える ～アセスメントの在り方を探る～」について、昨年度の研究発表を行いました。発表では、研究1年目に得られた客観的指標をもとに、研究協力校で行った実践から次の2点について報告しました。

- ①事前にリスク対象者を把握しておくことで、未然防止や早期対応が図られ、新たな不登校の未然防止につながる。
- ②累積欠席日数「5日」「10日」という基準を設けて段階的にアセスメントを行うことで、長期欠席の未然防止や早期対応につながり、新たな不登校を防ぐことができる。

本研究では、客観的指標をきっかけに教職員の間で「児童生徒をより知ろう・より見よう」とする意識が高まり、小さなサインを見逃さない働きかけにつながったと報告がありました。多忙な日々の中で教職員は「きっと大丈夫だろう」という正常性バイアスに陥りがちですが、この実践を通して一度立ち止まって児童生徒を俯瞰し、その背景にある「しんどさ」に改めて目を向けるきっかけとなったと感じられました。

【調査研究発表2】

教育研究所研究員の山中 豪より、調査研究テーマである「協働的に学び続ける教職員集団」と「ICT を活用した個別最適な学び」について、今年度の研究の概要や今後の進め方を説明しました。

前半では、「協働的に学び続ける教職員集団」の実現には、教職員同士が支え合い、学び合う「同僚性」が欠かせないこと、また、同僚性が学校の中でどのように育まれているのかを明らかにするため、調査研究を進めていることを説明しました。

後半では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向け、一人一台端末等の ICT 環境を生かし、児童生徒が主体的に学びを進めることのできる授業づくりを進めていくことを説明しました。

今年度は、研究協力校と連携しながら実践を重ね、研究を進めていきます。

【教育講演会】

関西外国語大学外国語学部教授 新井 肇 様を講師にお迎えし、「『チーム学校』による『支える生徒指導』の実現に向けて」と題して、教育講演会を開催しました。

講演では、不登校やいじめ、暴力行為など、児童生徒を取り巻く課題が複雑化・多様化する中、これからの生徒指導には、課題への事後的な対応だけでなく、児童生徒の成長・発達を日常的に支える「支える生徒指導」が重要であることが示されました。また、担任一人で抱え込むのではなく、教職員同士が情報や考えを共有し、専門職や関係機関、家庭、地域とも連携・協働する「チーム学校」の必要性について、具体的な実践例を交えながらお話いただきました。さらに、風通しのよい職場環境や心理的安全性を基盤とした「学び合う同僚性」を育み、学校全体が「学習する組織」として学び続けることの大切さについても学ぶ機会となりました。



<大会参加者の感想より>

- ・ 不登校生徒数が増加傾向にあるなかで、「なぜ学校に来ない？」と考えるのではなく、「どうすれば来られるだろう？」と転換して考えることで、子どもに向き合うことができ、寄り添った支援ができるのだと学びました。
- ・ 個々になりがちな学級経営も、チームでやることで良い考えが浮かんだり、環境も良くなったりするなと感じたので、ぜひ同僚性を高めていきたいと感じました。
- ・ 研究から教育にいきなり ICT を活用するかについて考えることができました。これからも積極的に校務に ICT を活用し、児童にとっても効果的な活用をするとともに、それと同時に ICT ではなく対面で話す機会を意図的に増やしていきたいと考えます。
- ・ 今、抱える課題が大きい事を知り、厳しいと思いました。ますます、難しい世の中になるのだらうと思うと、教職員もレベルアップが必須だと思いました。教職員のそれぞれの力を有効に出し合い、お互いに助け合い、学び合う事が大事だと改めて思いました。
- ・ 難しい話なんだろうなと思いながら聞き始めましたが、とても分かりやすい言葉で大事なことをたくさん教えて頂きました。やはり大切なのは、子どもとのつながりや、教師同士のつながりなんだと改めて感じました。二学期から心して生徒支援にあたりたいです。

【特集】 守山市教職員夏期研修

今年度は延べ750名以上の方に受講いただきました。自分の課題解決のため、学びを深めるため等、様々な目的で受講していただいたかと思います。受講者の感想を一部掲載しますので、学びを共有いただけたらと思います。



Google フォームでの振り返りにご協力ありがとうございました。いただいた各講座のアンケートを参考にし、今後も教育現場のニーズにお応えできる研修講座を計画していきたいと思っています。

生徒指導・教育相談研修講座

実践力形成ステージ	A-1 7/29(水)	子どもの理解と支援 ーアセスメントとは理解のプロセスー	滋賀県教育委員会 SC SV 安藤 りか
	○不登校支援についてわかりやすく教えていただけてありがたかったです。子どもたちのエネルギーをしっかりと貯められるような支援をしていきたいです。 ○アセスメントの重要性について改めて振り返ることができました。生徒、保護者がどのように考えているかをしっかりと話をして把握した上で、SC やSSW とも共有し、より良いタイミングで適切なかかわりを持てるようにしていきたいです。		
	A-2 7/30(木)	自分たちでより良い学級をつくってこう ～楽しい学級づくりの実践例～	元市内小学校長 小川 宏
	○どんな子どもに育てたいか、どんな学級にしたいかを考え、子どもたちと目標を決め、その目標に向かって何ができるかを考えたいと思いました。綺麗事を言う事は簡単だけれど時には泥臭く子ども達と共に壁を乗り越え、教師も一緒に成長して行くのだと感じました。 ○実際の学級通信を見ながら追体験のように学べたことが面白かったです。時折自身のクラスを振り返りつつ、自分ごととして考えることができました。		
	A-3 7/21(火)	学校(学級)に行きづらい子どもを理解しようとするために	教育支援センター こども支援コーディネーター 水野 恵
	OBPS モデルを活用して行き渋っていたり困っていたりする子どもの解決策を考えていきたいと思った。文字に起こすことで本当に解決策を考えるために足りないところを見つけることができた。可視化することの大切さを学ぶことができた。 ○今回の講座を通して、子どもの実態を多角的な側面から捉え、理解しようと考える姿勢の大切さを学んだ。これまでを振り返ると、自分の思いや考えを言葉にすることが苦手な生徒との関わりに悩んだことがあった。しかし、「子どもを主体にして、声をかけてくれるのを待つ」「沈黙も大切にする」という考え方を知り、自身の話の聴き方を見直したいと思うきっかけとなった。		
発展・深化ステージ	E-1 8/3(月)	生徒指導の記録の取り方 ※中堅教諭等資質向上研修も兼ねている	岡山県立大学 特命研究員 周防 美智子
	○今日のお話を聞いて、記録を残すことの大切さを改めて実感しました。メモだけで終わっていることがたくさんあるので、もっと記録としてデータで残したいと思いました。2学期からの実践でいかしていきたいです。 ○生徒指導上の聞き取りや記録について分かりやすく具体的に講義いただき学びになりました。職員全体で目線を合わせることが組織対応につながると感じました。		

発展・深化ステージ	E-2 8/3(月)	子どもと家庭の支援 ～多様な背景の理解と手立て:アセスメントの仕方とつなぎ方～ ※中堅教諭等資質向上研修も兼ねている	滋賀県教育委員会 SSW SV 上村 文子
	○今日の講話を聞いて、本校にいる子どもや職員、学級が思い浮かびました。それぞれの困っている子達、頑張っている職員、日々奮闘している保護者さんたちに、私がどのように関わっていけるかたくさん考える時間でした。 ○今年も、上村先生の話聞くことができて、すごく勉強になりました。実践での状況をもとに話してくださるので、自分の姿を振り返りながら学ぶことができました。		



コミュニケーション力育成講座

実践力形成ステージ	B 7/21(火)	子どものやる気を引き出す言葉がけとは ～やってみよう ペップトーク～	淡海言の葉教育研究所 代表 安岡 寛
	○ペップトークがどんなものなのか、どういうふうに言葉をかけると良いのか学ぶことができました。仕事でも家庭でも、まずは受容することから大切にしたいと感じました。 ○日頃の自分の言葉に目を向ける機会をいただくことができました。時間や心に余裕がないと「ネガティブな言葉」が多く出てしまっていると、最近感じていたので、ポジティブな気持ちでポジティブな言葉を発したいと思います。 ○ペップトークについてよくわかりました。「二学期からできそう!」とポジティブに考えることができました。特に行動をうながす声かけでは、知らず知らずのうちに「してほしくない」ことを伝えているように感じるので、これからは意識して言葉かけしていきたいです。		



授業力向上研修講座

実践力形成ステージ	C-1 7/29(水)	歌って!奏でて!広がる音楽指導 — 歌唱・器楽の実技で学ぶ授業づくり —	守山中学校 明富中学校 校長 福井 洋枝 教諭 國門 香奈恵
	○今日は子どもになりきって参加させていただきました。先生方のアドバイスにより、だんだんと歌声や音色が変容していくのがとても心地良く、楽しかったです。授業の中にも活かしていきたいです。 ○歌うことに自信がなかったのですが、一緒に歌って声が綺麗に響く様子を体感して歌うことが楽しいと思えました。この気持ちを子どもたちにも感じてもらえるように指導したいと思いました。		
	C-2 7/22(水)	学ぶ力向上のための ICT 利活用	物部小学校 主幹教諭 西村 幸太
	○今回の講義を通して、ICT の活用の幅が広がりました。知識はあっても使い方が分からなかったり始めるのに一歩踏み出せなかったりしていたので2学期から活用していきたいです。 ○やりたい事が山ほど見つけられました。夏休みという期間を生かして、一つひとつの作業のやり方を覚えていきたいです。とくに生成 AI を使ったことがなかったので、その便利さを知り感動しました。ぜひ、うまく使いこなし、自身の働き方改革にも繋げたいと思いました。		



実践力形成ステージ	C-3 8/4(火)	気づき感動し、自らの生き方を深く考える道徳の授業づくり	長浜市教育委員会事務局 教育指導員 横尾 俊美
	○道徳の授業をどうすれば良いのかをずっと悩んできた。今日の講義を聞いて、子ども達が考えたいと思えるような切実感を出しつつ、自分の生活に繋がっていきけるような授業をしていきたい。 ○本講座を通して、道徳の授業作りを行う際にはねらいを明確にして、意見交流やロールプレイ、気持ちの大きさを表すツールなどの活動を通して、自分がどう思うかが重要であることを学びました。様々なワークシートも知ることができ、今後の道徳授業に活かしていきたいと思いました。 ○道徳の授業の構成として後段の自己を見つめる取り組みについて、具体的に話を聞けてとてもためになった。道徳の授業の進め方を見つめ直すとてもいい機会になりました。		
	C-4 8/10(月)	子どもたちが興味を持つ理科の授業	河西小学校 教諭 堀 道雄
	○理科の授業において探究的に子どもたちが考えられる仕組みづくりを大切にしたいと思う。自分自身も理科のメガネをつけて生活し、子どもたちに語れるようになっていきたいと思った。 ○理科のメガネをかけることで、身の回りには面白いことがたくさん溢れているのだと感じました。実際に自分自身が考えて参加することで、子どもにも同じような思考の楽しさを味わわせてあげたいと思いました。		
発展・深化ステージ	F 7/23(木)	「読解力・読み解く力」を高める授業づくり	大津市教育センター 副参事 北村 拓也
	○全体を通して、自分の考え方を改めて認識できる時間となりました。講座の中で、個別と協働の一体化という言葉がありましたが、さまざまな課題を読み解いていくために必要な学習形態だと感じました。 ○守山市のベーシックステップと読み解く力の流れは関連性が大きく、目的意識や子どもを主語にした授業づくりが大事であることを考えさせられました。 ○今日の講座を聞くまでは、読み解く力の図についてなんとなく分かっているつもりになっていただけだということに気が付き、深く反省しました。2学期からは県や市が示しているポイントを改めて見直して子供たちが目的意識をもって協働的に学べるような場を作りたいと思います。		

特別支援教育研修講座

実践力形成ステージ	D-1 7/31(金)	こんな子いませんか？ 子どもの見立て・めあて・手だて	発達支援課 発達支援コーディネーター 吉田 愛子
	○子どもの見立て・めあて・手立てについて、具体的な子どもの様子を交えての説明がわかりやすかった。具体的にどのように声をかけたら良いかも示されていたので、2学期からの実践に役立てたい。 ○担任していた子や、今対応している子を思い浮かべながら聞くことができました。手立てより、まず見立てることの大切さを改めて考えることができました。		

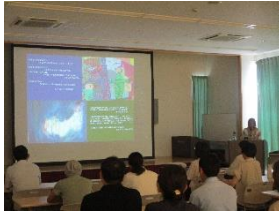
実践力形成ステージ	D-2 8/4(火)	作って良かったと思える個別支援計画	学校教育課 特別支援教育推進員 丸田 尚志
	○今回の講義では、個別支援計画の作成方法だけでなく、具体的な事例をもとに説明していただいたことで、実際の指導場面をイメージしながら学ぶことができ、とても納得感がありました。 ○個別支援計画について、目標の立て方、評価の仕方など、再度確認しながら話を聞いていました。グループワークで他校の先生と交流でき、参考になりました。		
	D-3 7/31(金)	個に応じた支援 ～特別支援教育の視点から～	守山小学校 教諭 北村 妙子
発展・深化ステージ	○担当している児童に置き換えて話を聞きながら、あんなことできるかも、こんな声かけやってみたら…と想像していました。トライアンドエラーを繰り返しながら、2学期も頑張ろうと思えました。 ○子どもの成長を信じること、行為だけからではなくその真意を分かろうとする教師の姿勢を学びました。2学期からの自身の子どものとのかかわり方、担任とのつながり方にも生かしたいと思います。		
	D-4 7/29(水)	学校における合理的配慮提供の基本的な考え方	神戸女子大学 教授 田中 裕一
	○どんな支援をするにしてもまず子ども本人の思いを大切にすることが大切だと感じました。日頃から関係作りに励み、本音が引き出せる聞き上手になれるようにしていきたいです。 ○特別な支援を考える際に、本人の意思、希望がどこにあるのかを常に考えないと、ずれていってしまうこと、間違ってしまうことがあると実感しています。複数人で考えているときに常に念頭に置きたいと思います。		
発展・深化ステージ	G 8/10(月)	発達障害のある子どもとのかかわりについて	済生会守山市民病院 医師 上羽 智子
	○たくさんの症例やそれぞれの支援の方法、子どもの困りごとの背景の見立て方など、具体的な支援について教えていただけて、有意義でした。 ○子どもの困り感の背景には、発達障害に含まれる発達の特性の他にも、生活リズムや睡眠などの生活習慣が関わっていることがわかりました。特に、睡眠やネットとの適切な付き合い方については、ICT の活用のメリットデメリットも含めて支援していく必要があると感じました。		

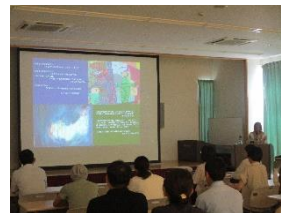


学校マネジメント研修講座

H 7/30(木)	生徒指導と法	いぶき法律事務所 弁護士 三木 恵明
○スクールロイヤーの講演を通して、学校現場では経験や慣例だけで判断するのではなく、法的な視点を踏まえて対応することの大切さを学びました。特に、子どもの権利を守りながら教職員自身も適切に守られる環境づくりが重要であると感じました。 ○校内で起こっている様々なケースを想像しながら考えることができた。また、今後の対応や過去のケースについても具体的なことを考える機会になった。		

教師力・人間力向上研修講座

I 7/24(金)	全ては幸せを感じるために ～やまなみ物語～	やまなみ工房
		施設長 山下 完和
〇一人ひとりの好きをとことん尊重されていて、存在そのものを大切にされていることに感動しました。意味なんてないが、丸ごと包み込まれていました。それを目の前の子どもたちにもできるか、まずは一人ひとりを正しく理解することが大事だなと感じました。 〇これからの子どもたちとの関わり方を見直す大きなきっかけになりました。何ができるのかを考えることも大切ですが、本人が何をしたいのか、幸せとは何かを考えることの大切さを学びました。		



幼児教育研修講座

J-2 8/21(金)	保育に活かす!歌遊びと簡単なピアノ伴奏	元小学校教諭
		中西 實
○ピアノに苦手意識があり参加したのですが、ピアノが楽しいもの、子どもと一緒に楽しんで行きたいと思いました。様々な歌をおしえていただいたので、保育に生かしていきたいと思います。 ○中西先生のピアノの音から力強さと子どもに対する思い、温かさを感じました。ピアノに苦手意識をもっていますが、中西先生のように子どもと目線を合わせながら楽しんでピアノを弾けたらと思いました。		



小中学校外国語教育実践講座

K 8/20(木)	英語の授業改善実践講座	ボーダーリンク講師
〇今まで知らなかった、できていなかった授業のポイントを実践を交えながら知ることができました。Keep it simple を心がけていきたいと思います。 〇講師の先生方のデモンストレーションを見て、簡単でシンプルな英語と大きなジェスチャーで子どもたちにわかりやすく教えているのを見て、もっと授業中に英語を使っていこうと思いました。		



指定研修



中堅者資質向上研修(2回)も実施しております。夏期研修講座と兼ねて行っておりますので、上記の夏期研修講座をご覧ください。

【ステップアップ研修】

ウー2 7/23(木) 授業づくりのポイント
ウー3 8/7(金) 学級づくりのポイント



【ボトムアップ研修】

オー2(選択研修)

A-1(児童生徒理解) A-2(学級づくり)
C-3(道徳) D-1(特別支援教育)

※今年度は自分の課題に応じて研修の内容を選択して受講するようにしました。

オー3 8/3(月)

守山市の学ぶ力向上の取り組み(兼中堅研)



第17回生徒会サミットを開催しました



令和8年8月17日(月)、守山市立守山中学校をお借りして、市内6中学校の生徒会代表者が一堂に会し、第17回生徒会サミットを開催しました。



今回のサミットは、現3年生にとって1年間のまとめとなる場です。昨年12月の第15回サミットで顔合わせを行い、最上位目標を誰一人取り残さない未来を願った「未来創生～No one left behind～」と決定しました。続く5月末の第16回サミットでは、この目標を実現していくための具体的活動を協議し、未来を担う就学前の子どもたちに先輩としてメッセージを込めた絵本づくりに、6グループがそれぞれテーマを決めて取り組むことになりました。

当日は、当番校である守山北中学校生徒会のみなさんが準備・受付・司会進行を担当し、場を和ますアイスブレイクも計画してくれました。初対面の生徒同士でも、ゲームを通して和やかな雰囲気が生まれ、すぐに仲良くできる物怖じしない生徒の様子に感心させられました。

絵本の制作は、授業でも活用しているクロームブックを使い、グループごとのクラスルームにスライドを投稿し合いながら進め、完成後は園や学校に配信できるようにすることにしました。なお、6グループの中で1グループだけは、画用紙に絵で描くスタイルにこだわり、マジックや絵の具で作成することになりました。

生徒たちは、登場人物を決めたりストーリーを決めたり・活発に話し合いを進めましたが、中には生成AIに相談してヒントを得るグループもあり、昨今の子どものICT活用能力の高さに驚かされました。

約2時間の活動では、どのグループもストーリーの作成までは進みましたが、絵本の完成までは至りませんでした。そのため、今後は各自が担当のスライドを自宅で仕上げてクラスルームに投稿し、再度集まって完成させることになりました。このように全員が何回も集まらなくても作業が進められる点は、ICT活用の大きな利点であり、今の子どもたちに適している作業方法であると感じました。

今回の活動が順調に進んだのは、生徒のがんばりはもちろん、各校の先生方のご指導や教育委員会ICT支援員さん、青少年育成市民会議のみなさんのご協力によるところが大きく、この場をお借りして御礼申し上げます。

今後、第17回の追加サミットとして、絵本の完成とお披露目のための再集合日程を調整しています。



完成した絵本は、データ化して各校園が自由に利用できるようにし、市内生徒会が作成した成果物として広く活用してもらうよう周知していきます。子どもたちの力作を、ぜひご覧ください。

最後になりましたが、この1年間運営を担ってくれた守山北中学校生徒会のみなさん、本当にありがとうございました。

12月からは、新たなメンバーで次期生徒会サミットを開催していく予定です。今後ともよろしく願いいたします。

